
四季の庭 ～桜舞う場所～

本宮蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

四季の庭　　ゝ桜舞う場所ゝ

【Nコード】

N0979U

【作者名】

本宮蒼

【あらすじ】

桜と少女

小説というより、ポエムっぽい

塀の中には、一本の桜の木が立っていた。

樹齢何年かはわからないけれど、確実に私よりは長く生きているだろう。見上げるように大きな木の前で、私は情けない気持ちのままで立っている。

塀に囲まれた小さな庭には、小さな丘と、その上に立つ一本の桜の太木、それしかない。あとは庭一杯の緑に、小さな草花がぽつぽつと顔を出している程度。聞いただけでは寂しく思えるだろうが、実際には満開の桜のおかげで、そんな様には見えない。むしろ余計なものが何一つないせいで、桜の美しさがより際立って見える。落ちた花びらの絨毯も、風に流されたのかゆるやかに広がって、目に映る風景に優美さを添えていた。

私はいつものようにこの桜の木の前に立って、ため息を一つ吐いた。両手で握るように持つ鞆の取っ手の重さがずしりとくる。革でできているトランク型の茶色の鞆。実際にはほとんど空のこの鞆、重さもたいしたことはないはずだから、これはきつと私の心が訴えかける重さなのだろう。でも、どんなに訴えかけられても、私はここから動けない。いつかここから旅立つために用意した鞆だけれど、その目的が果たされる日は、まだ遠そうだ。

空を見れば、日の差さない薄暗がり。せめてこの空が晴れてくれればと思うけれど、気が付けばずっとこんな空のままで、気持ちよく晴れたことなんて一度もなかった。でも、そんなうすく頼りない空にこそ、淡い桜の色がより映えて見える。

なんだかとても羨ましくて、眩しかった。

晴れた日の桜は美しい。でも晴れてなくても美しい。薄暗がりでも夜になってもその美しさは変わらない。ただ見ている側の美しさの受け取り方が変わるだけで。そしてどんな風にこちらが受け取る

うとも、それが醜く見えることだけはないのだ。

それはきつと、どこにあらうが周りがどうなるうが、桜は桜以上ものでなく、それ以下でもない。誰がどう見ようと関係ない。きつと、それだけで完成したものとしてそこにあるからなのだろう。

自分のやりたい事すらできずにふらふらと立ちすくむだけの私では及びもつかない、その圧倒的存在。もしかしてそれに少しでも近づきたくて私はこうやっていつも桜を眺めているのかもしれない。

いつか、いつか、私もこんな風になれば。

そうしたら、私はこれから旅立つ事ができるようになるのだろうか。

塀の中には、一本の桜の木が立っていた。

いつもと変わらぬ姿の前に、いつもと変わらぬ私がいた。

(後書き)

四季の庭、その1

春のお話

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0979u/>

四季の庭 ～桜舞う場所～

2011年10月9日05時11分発行